

# 松戸保健所感染症情報

2017年 5月

(2017年5月11日配信)

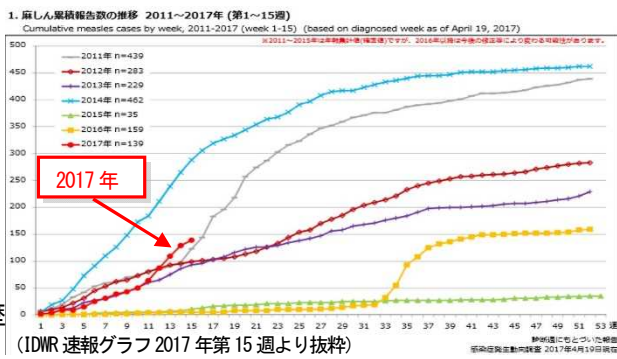


## ◇ゴールデンウィークに海外に渡航された方へ～帰国後に注意すべきこと～◇

海外には麻しん・風しんや、動物や昆虫(蚊・ダニなど)が媒介する感染症や水や食べ物から感染するコレラ、赤痢、腸チフスといった消化器系の感染症など、日本ではまれな感染症が流行していることがあります。海外から帰国後に発熱や咳、下痢など体調に不安がある場合に、検疫官に相談していただくことが大切です。ただし、感染症には、潜伏期間が数日から1週間以上と長いものもあり、帰国後しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。体調不良時は早めに受診するようにしてください。また受診時は、海外渡航歴があることを医師に伝えることが重要です。医療機関は初診患者さんに対して、海外渡航の有無を問診するよう注意してください。渡航歴がある場合、滞在期間や現地での飲食状況、行動内容、動物との接触有無、ワクチン接種歴等を確認するようお願いいたします。(FORTH-厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/> (ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について) [http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html))

### ◆海外からの麻しんウイルスの輸入が継続して起きています◆

日本は2015年3月、麻しんの排除状態にあることがWHO(西太平洋地域事務局)より認定されました。しかし輸入例を発端とした感染拡大が、2017年も国内各地で起きています。麻しんは世界中で感染する危険がありますが、2016年に報告された人口100万人あたりの患者発生率が高い国は**モンゴル、マレーシア、中国**でした。日本国内で2017年第1~14週に診断された麻しん症例数(2017年4月12日現在)は114例あり、推定感染地域のうち国外が21例(インドネシア11例、タイ、タイ/カンボジア、タイ/マレーシア、ガボン、シンガポール、ニュージーランド、ネパール、ベトナム、マレーシア、ミャンマー各1例)となっています。帰国後高い熱が出た場合、まずは医療機関に電話し、現在の症状と渡航歴があることを伝え、病院の指示に従って受診するようにしてください。



(IDWR 2017年第14号<注目すべき感染症>麻しん 2017年第1~14週) <http://www.niid.go.jp/niid/ja/id/656-disease-based/ma/measles/idsc/idwr-topic/7235-idwrc-1714.html>

### ◆海外でも国内でも注意が必要な蚊媒介感染症◆

世界的に多く報告されているのが蚊を媒介とした感染症です。特に熱帯・亜熱帯地域ではマラリア、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、黄熱などに注意が必要です。他にも日本脳炎、ウエストナイル熱などが国内で発生あるいは持ち込まれる可能性が高い疾患です。このうち2016年の千葉県感染症動向調査において、ジカウイルス感染症\*1件、**デング熱33件**、マラリア4件について報告されています。大型連休や夏休みで渡航機会が多くなること、また国内での蚊の活動期を迎えることから、7~9月にリスクが高まります。感染予防として、蚊にさされないよう、**長袖・長ズボン等肌の露出が少ない服装**にし、**虫よけスプレー**などの忌避剤を利用しましょう。また、雨水ますやタイヤ、植木鉢の受け皿など、発生源となりうる水を除去し、**蚊の発生を予防**しましょう。

\* ジカウイルス感染症:平成28年2月15日から4類感染症

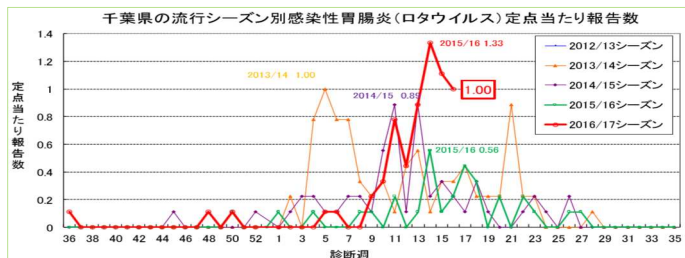
(東京都感染症情報センター) <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/mosquito/>

(国立感染症研究所:蚊媒介感染症の診療ガイドライン(第4版)(2016年12月14日作成) <http://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/sa/zika/6950-zika-medical-g4.html>)

## ◇千葉県情報◇ <https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/> (千葉県)

### ◆感染性胃腸炎~ロタウイルスによる胃腸炎に注意~◆

感染性胃腸炎の2017年16週の県全体の定点当たり報告数は、15週の6.59から7.04と増加しています。保健所別では、柏市(14.33)が最も多く、松戸は7.75でした。注目したいのが、ロタウイルスによる感染性胃腸炎です。通常12月~年明け頃から発生を認め始め、春先に発生のピークを示すロタウイルスですが、16週現在、県内基幹定点医療機関から報告によると例年よりも2倍以上多い状況です。帰宅後やトイレの後等は液体せっけんと流水でよく手を洗いましょう。また嘔吐物や便、オムツを処理する場合は使い捨てのビニール手袋、マスクを用い、汚染された衣類や床・用具は適正な濃度の塩素系消毒薬で消毒してください。片付けが終わったら良く手を洗い、うがいをしてください。汚染時の対応を徹底し、感染拡大防止に努めましょう。



<千葉県感染症情報センター週報(2017年16週)より抜粋>

(厚生労働省HP)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/Rotavirus/top.html>

### ◆インフルエンザ警報の解除について(2017年4月12日)◆

千葉県では平成29年第14週(4月3日~9日)の集計において、県内の全保健所管内でインフルエンザの終息基準値(10)を下回ったため、4月12日をもってインフルエンザ警報を解除しました。ただし全国の定点医療機関当たりの報告数は4.06(16週)と、前週の3.98よりも増加しており今後も注意が必要です。(千葉県ホームページ)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippeikansenshou/influenza/influ2009.html>

### ◆6月1日から食中毒注意報が発令されます◆

本年から、6月1日~9月30日までの間、食中毒注意報を発令し、注意喚起することとしました。

食中毒の原因は色々ありますが、これからの時期(6月~9月)に多く発生するのは、細菌が原因となる細菌性食中毒です。予防の3原則は「**細菌を付けない、増やさない、やっつける**」です。細菌を付けないために、まずは手指や器具類を清潔に保ち、洗浄・消毒をしてください。食品に食中毒菌が付き、菌量が増加すると食中毒を起こします。一部の菌は時間の経過とともに増えるので、調理を迅速に行い、調理後は早く食べることが大切です。また細菌は10℃以下で増えにくくなるので、食品は冷蔵庫に保管しましょう。一般的に食中毒を起こす菌は熱に弱く加熱により死んでしまいます。調理の際は中心まで十分に加熱してください。

(千葉県) <https://www.pref.chiba.lg.jp/eishi/shokuchudoku/#a0>

(厚生労働省HP)

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html)

### ◆感染症発生状況(4月分)・・・管内医療機関発生届出数◆

2類感染症/ 結核 8件

5類感染症/ 7件 内訳:急性脳炎1件、梅毒1件、後天性免疫不全症候群1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件、侵袭性肺炎球菌感染症 3件



### ◆松戸保健所管内の結核新規登録者数(4月分)◆

|      | 活動性肺結核 |         | 活動性肺結核 | 潜在性結核感染症 |
|------|--------|---------|--------|----------|
|      | 喀痰塗抹陽性 | 菌陰性-その他 |        |          |
| 松戸市  | 2      | 1       | 1      | 4        |
| 流山市  | 1      | 2       | 0      | 1        |
| 我孫子市 | 0      | 0       | 1      | 1        |
| 計    | 3      | 3       | 2      | 6        |

# 松戸保健所管内の感染症発生動向（最近5週）

管内 県全体 警報基準値 終息基準値

マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は基幹定点のみの集計。RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎とクラミジア肺炎は警報基準値等の設定なし。

